

論文の出題分野（最近2か年）

日程	2023年度入試	2022年度入試
A日程 (8月)	『人の心に働きかける経済政策』①要約 ②具体例（あなたの見解）	『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』 ①要約 ②具体例の分析
B日程 (9月)	『科学的とはどういう意味か』 ①論旨の説明 ②あなたの見解	ルソー『エミール』 ①論旨の説明 ②概念の説明 ③あなたの見解
C日程 (2月)	『家父長制と資本制』 ①論旨の説明 ②あなたの見解	『科学と非科学 その正体を探る』①論旨の説明 ②あなたの見解
D日程	なし	『バイアスとは何か』 ①要約 ②具体例を挙げて説明

傾向と対策

A) 傾向

- ①文章の要約（重点を置くべきポイントが指示される）、②それを前提に、著者の見解を具体的問題に応用させたり、具体例を挙げて自己の見解を述べさせるものが多い。
- 因果関係の導き方、グローバル化の功罪、バイアスとは何か、女性の社会進出、交渉と合意形成等、法曹志望者に考えてもらいたいテーマが選ばれている。

B) 対策

- 自己の見解を問う問題も、著者の見解の正確な理解を前提とする。
⇒ 自由作文ではない。見解の独自性を競う必要はない。
- 説得力のある具体例を挙げられること。
⇒ 専門以外にも視野を広げよう！（ニュース、新書等）
- 設問に出題者が解答してほしいことが示されている。
⇒ 設問をよく読み、問われていることすべてに答えよう！

憲法の出題分野 (最近2か年)

日程	2023年度入試	2022年度入試
A日程 (8月)	設問1：語句説明問題 設問2：事例問題 地鎮祭への公金支出と 政教分離原則 （津地鎮祭事件）	裁判官の政治活動と 表現の自由 （堀越事件、寺西事件）
B日程 (9月)	設問1：語句説明問題 設問2：事例問題 ビラ配布目的での集合ポストへの無断立入りと 表現の自由 （防衛庁立川宿舎ビラ投函事件）	設問1：語句説明問題 設問2：事例問題 強制加入団体の活動と 構成員の思想良心の自由 （南九州税理士会事件）
C日程 (2月)	設問1：語句説明問題 設問2：事例問題 嫡出性を要求する国籍取得要件と 法の下 の平等 （国籍法判決）	受刑者の 選挙権 制限 （在外国民選挙権事件）
D日程	実施せず	設問1：語句説明問題 設問2：事例問題 公務員の 政治活動の自由 （堀越事件、宇治橋事件）

傾向と対策

A) 傾向

- 人権分野からの出題がほとんど。
- 事例問題がメインだが、2022年度入試から語句説明問題も出題。語句説明問題は統治分野からの出題が中心。
- 事例問題では、基本的な論点（いわゆるAランク論点）について理解を問うものが多い。主要判例の知識があれば解答は可能。

B) 対策

- 基本的知識（概念・定義など）を正確に理解すること。
⇒ 教科書1冊を丁寧に読んでおこう！
 - 事例の事実関係から論点を発見できること。
⇒ 主要な判例と学説を知っておこう！
 - 基本的知識を用いて、事例の分析ができること。
⇒ 演習書を使って実際に事例問題の練習をしよう！
- * 穴戸常寿ほか編『憲法演習サブノート210問』がおすすめ。

民法の出題分野（最近2か年）

日程	2022年度入試	2023年度入試
A日程 (8月)	〔設問1〕 中間省略登記と債権者代位権 〔設問2〕 契約交渉破棄における責任	〔設問1〕 賃貸人の地位の移転・賃貸借契約の解除 〔設問2〕 受領遅滞と損害賠償請求・契約の解除
B日程 (9月)	〔設問1〕 賃貸借に関する総合問題 〔設問2〕 有責配偶者からの離婚請求	〔設問1〕 種類物と危険負担 〔設問2〕 法定相続人と相続分
C日程 (2月)	〔設問1〕 契約不適合責任に基づく損害賠償請求 〔設問2〕 不法行為時の胎児の法的地位	〔設問1〕 盗品に対する物権的返還請求権 〔設問2〕 受領権者としての外観を有する者に対する弁済
D日程	〔設問1〕 差押えと相殺 〔設問2〕 建築請負における所有権の帰属 〔設問3〕	なし

傾向と対策

A) 傾向

- **基本的な論点および民法の原則**についての理解を問うものが多い。**民法の諸原則および主要判例**の知識があれば解答は可能。
- **改正民法**からの出題が多くみられる。
- **家族法**からの出題も見られる。

B) 対策

- **基本的知識（概念・定義など）を正確に理解していること。**
⇒ 1冊で民法全体（家族法含む）をカバーしている本などで基礎を学習、例えば**潮見佳男『民法（全）第3版』（有斐閣）**など。
- **主要な判例を知っておくこと！**
⇒ 『**判例百選Ⅰ～Ⅲ 第9版**』（有斐閣）あるいは『**判例30！**』（有斐閣）×①～⑤くらいには目を通しておく（いずれも家族法含む）。
- **基本的知識を用いて、事例の分析ができること。**
⇒ 演習書を使って実際に事例問題の練習をしよう！
『**民法演習サブノート210問 第2版**』（弘文堂）（家族法含む）などがお勧め。

商法の出題分野（過去2年分）

日程	2023年度入試	2022年度入試
A日程 (8月)	<ul style="list-style-type: none">取締役会決議を要する重要な財産の処分（会社362条4項1号）	<ul style="list-style-type: none">表見代表取締役（会社354条）
B日程 (9月)	<ul style="list-style-type: none">株主総会の招集手続上の瑕疵と決議取消の訴え（会社831条）全員出席総会の効力	<ul style="list-style-type: none">公開会社における通知・公告（会社201条3項・4項）を欠く募集株式の発行の効力
C日程 (2月)	<ul style="list-style-type: none">取締役会の承認を欠く譲渡制限株式譲渡の効力と会社が譲渡人を株主として取り扱うことの可否	<ul style="list-style-type: none">代表取締役の解職と特別利害関係（会社369条2項）
D日程	実施せず	<ul style="list-style-type: none">取締役の解任（会社854条、339条）

傾向と対策

a) 傾向

- 出題範囲（法令）は会社法（会社法施行規則）のみ。
- 会社法における1つないし2つの典型論点が出題される傾向が強い。
- 当該論点につき、必ずしも、最高裁判例が存在するわけではないが、最高裁判例のある論点が出題される可能性が高い。
- 設問は常に2つ。〔設問1〕では、**制度趣旨**や**要件**等が問われることが多く、〔設問2〕では、事例問題における当てはめが出題される。

B) 対策

- 薄くても構わないので、**基本書を1冊**しっかりと精読することが必要（司法試験受験者に定番の基本書、学部で使用した基本書等、なんでも構わないが、最新のものが望ましい）。
- 基本書を読む中で、必要に応じて**判例百選**で重要判例をチェックする。
- 市販の問題集（Law Practice 商法など）で、起案の練習をする。
→ 必須ではないが、やっておくとLS入学後に楽になる？